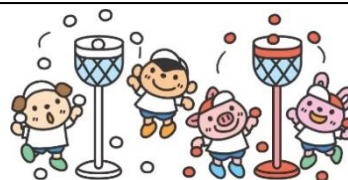


運動会



昨年の 10 月 25 日、体操服の子ども達が揃ってプレイルームに集まり運動会が始まりました。大玉運び、ハイハイ・カタカタ競争、かけっこ、サーキット、玉入れ…。それぞれに自分らしく奮闘し、泣き、照れながらゴールを目指しました。そして見守る周囲からの声援と温かい拍手。今回は感染症で不参加になるお部屋がなく、幼児部は全室、乳児部は 14 名の病児障害児が参加出来ました。子ども達の健やかな成長を願う運動会となりました。

保育士 中村



らいおん室のクリスマス



昨年、らいおん室では初めてお部屋にクリスマスツリーを飾りました。12 月になって、ツリーをお部屋に持って行くと、興味津々な子ども達は「これ、な～に？」と集合。「クリスマスツリーだよ」とお話ししてもピンとこなかったようですが、それでも一つひとつ組み立てられていくツリーを前に「キラキラあるね」「これはどこ？」と盛り上がり始め、飾りつけを楽しむことができました。そして、電飾を点灯した時に興奮はマックス！「うわあああ！！」と歓声が上がりました。例年は、保育者が飾り付けたツリーを見るだけでしたが、自分たちで飾り付けもしたことから、クリスマスやサンタさんに対する期待感は更に高まったようでした。そして、クリスマス会やプレゼントを堪能した後の 26 日、ツリーのお片付けもみんなでした。「キラキラやったね」「電車もらったね」「ケーキつくったね」と、クリスマスの思い出を口々に話しながらツリーを箱にしまいました。「サンタさんまた来てね～」子ども達の声はきっとサンタさんに届いた事でしょう。

保育士 須永



初詣

2018 年元旦、子ども達とバスに乗って金王神社へ初詣に行きました。晴天に恵まれ 1 月にしては気温も暖かく、お出かけ日和でした。バスに乗ると嬉しそうに声を出す子や、少し緊張した表情の子もいました。神社に着くと早速お参りです。今年 1 年間の健康と子ども達が毎日楽しく過ごせるようにと、あーちゃんと一緒に手を合わせる子ども達がとても可愛らしかったです。神社では、綿あめやお汁粉が振舞われていました。その中でもお汁粉が想像以上に美味しくておかわりもしました。おみくじでは、吉・小吉・中吉・大吉とそれぞれ引き当てて、なんだかとても縁起が良いかと、新年早々嬉しくなりました。

保育士 田井

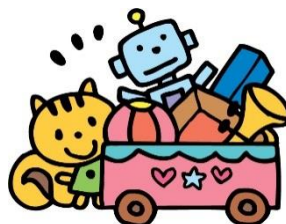


ホスピタル・キャラバン

病院専用の移動型おもちゃ美術館活動として、全国の病気の子どもとその家族へ向けて活動を行っているホスピタル・キャラバンが、今回縁あって乳児院でイベントを開催して下さいました。

おもちゃコンサルタントや、東京おもちゃ美術館のスタッフの方が、たくさんの魅力的な玩具を持って、遊びに来て下さいました。会場のプレイルームはいつもと違う雰囲気、人見知り、場所見知りの子どもは、遊べるかなと心配しましたが、始まってみれば、どの子も遊びに夢中になりました。午後は、病気や障害をもった子ども達がゆっくりとイベントを楽しみました。「遊ばせる」のではなく、「一緒に遊ぶ」ことの大切さを改めて感じた 1 日となりました。

家庭支援専門相談員 溝渕





冬の風邪について～下痢・嘔吐の対策



冬は、ロタウイルスやノロウイルスなどの感染性胃腸炎が流行しやすい時期です。特にロタウイルスは、0～5歳の乳幼児がかかりやすい胃腸炎で、初めて感染した時に症状が強く出ることがあります。どちらも抗ウイルス薬はなく、対処療法で回復を待ちます。下痢や吐き気、嘔吐が続くと脱水症状を引き起こす可能性があるため、こまめに水分補給を行いましょ。下痢止めは病気の回復を遅らせる事もあるので、市販薬などを使用せずに、医師に相談の上で対処するようにしましょ。

看護師 松本



ボランティアさん、ありがとう！

日頃お世話になっているボランティアさんへ感謝の気持ちを込め、昨年 11 月に茶話会を開催しました。近況報告やボランティア活動に対する思いなどそれぞれのお話を伺い、普段顔を合わすことのないボランティアさん同士も思わぬ所で接点があり、色々な発見がありました。研修会ではブラックライトを用いて「正しい手洗い方法」を学び大きな反響がありました。茶話会を経て、改めて多くのボランティアさんに支えられている事を実感しました。

看護師 長谷川



おせち料理

おせち料理は元旦や五節句など節日を祝うために作られる料理です。節日のうち最も重要なのがお正月である事から、現在では正月料理を指す料理になりました。年始を迎えるにあたっての様々な祈りが込められていますが、今年の乳児院では丈夫で元気に暮らせるようにと黒豆、祝いの水引にも通じる紅白なます、勝ち栗と呼ばれ縁起の良い栗きんとん、それからお煮しめ、松風焼き、主食に赤飯を用意しお重に詰めました。

調理師 熊野



編集後記



お正月は感染症もなく、子ども達のはのびりと過ごす事ができました。皆が元気いっぱい1年になりますように！



新年のごあいさつ

院長 今井庸子

新年あけましておめでとうございます。

冬らしい感染症がちらほらと乳児院内でも出始めましたが、全体的には落ち着いたお正月を迎えることができました。

新年第一報は、当乳児院の今年度の取り組みとその経過についてお話をさせていただきたいと思います。4月の年度替わりより4つの目標を掲げながら活動をすることにしました。

1. 養育指針を短期間で達成しやすい内容とし全職員が同じ目標に向かって活動できるようにする。
(毎朝、全員でよみあげる)

2. 入所児によりよい環境を提供する。

①勉強会の開催回数を増やし職員の勉強する機会を増やす。

②合同カンファレンス参加の義務化（以前は参加奨励）をして人材育成をしていくこと

③給食の内容改善

3. 個人の仕事、組織としての仕事それぞれに個別目標を設けて職員のやり甲斐を向上する。

4. 施設のハード、ソフト双方の安全面強化

①看護師を夜間帯も2名配置（以前は1名） ②防災対策の見直し ③業務マニュアルの見直し

すべての目標を現時点で達成できているわけではありませんが、体制作りに数年を要していた看護師の夜間2名配置ができたこと、養育指針が日々の養育に活かされつつあること、そして入所児の衣食住環境の中で長年問題視されていた食に関して厨房スタッフだけでなく、保育士・看護師も協力し考えながらおいしい食事へと変更できていること、また防災訓練方法を専門家に相談しながら改善している等の結果がでています。

たくさんの目標設定や体制変更に戸惑いを感じる職員もいますが、目標を明確にしながら活動することで成果が出せる力が私たちにあることを皆が実感できているように思います。今年度の問題点は来年度解決していくように目標を設定し、入所児へのよりよい生活環境の提供と職場環境の改善をしていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。お気づきのことがあれば、是非職員へ直接お知らせいただくか、意見箱への投函をお願いします。

〒150-0012

東京都渋谷区広尾4丁目1番1号

TEL 03-3400-0147 (代) 03-3400-1311

<http://www.med.jrc.or.jp/nyuji-in/index.html>

理念

私たちは、「人道・博愛」の赤十字精神を行動の原点として、子どもの最善の利益を守り、心身ともに健やかに成長できる保育看護を提供します。

私たちは、家族に寄り添い、地域との連携をはかり、家庭復帰を支援します。